

今年はいどい
スギ花粉症

毎年一月末より始まり、三月一杯続く、スギ花粉による花粉症ですが、本年は始まりが遅かったのですが、二月末より急に激に始まり、程度は例年より激しいようです。

昨年の天候条件からも、本年はスギ花粉が多いと予想されています。

風が吹きますと導了尊のあたりや、明神岳の中腹から黄色い煙が舞い上がるのが見えます。

花粉症とは？

花粉が原因で起こるアレルギー性の病気で、クシャミ、鼻水、眼がかゆい、涙がでるなど、鼻、眼などの症状を主としますが、喉がかゆい、咳が出る、皮膚がカユイなどの症状を訴える人もいます。

花粉は主にスギ花粉ですが、その他、ヒノキやイネ科植物(イネ、カモガヤ、ハルガヤ)やキク科植物(ブタクサなど)が原因となります。スギ花粉の時期(一月～三月)以外に花粉症の症状が起きる場合は、他の

花粉を考えます。

また、家の中のホコリ、ダニ、動物の皮膚、毛などで同様の症状が出ることもあります。

花粉症の診断

花粉の飛散する時季に、クシャミ、鼻水、眼がかゆいなどの症状があれば、まず花粉症に診断して良いと思えますが確認するためには、皮膚試験、血液検査などを行います。

花粉症の予防



花粉を吸わない注意

マスクをする。眼がねをかける。外出を少なくする。フトンを外に干すのを止める。エアコンのフィルターをかえるなどがあります。完全なものはありませんが、シーズン中はできるだけの対策をした方が楽に過ごせます。

薬剤を服用

花粉のシーズンが始まる少し前から抗アレルギー剤を服用するのは、少し効果があるようです。

その他

シソエキスなど宣伝されているものもあるようですが、効果は期待できません。

花粉症の治療

内服剤



抗アレルギー薬

最近眠くなったり、ダルクになったりしない抗アレルギー薬が出て来ました。

のどがかわくことも少ないので良く使われます。だいたい同じ様な効き目の薬ですが、種類はいろいろありますので合ったものを使うとよいでしょう。速効性はありません。

抗ヒスタミン薬

以前良く使われていた薬で症状に対しての効果の強さと速効性があります。しかし、眠くなる、ダルクなる、のどが渇くなどの副作用もかなりあります。

ステロイド剤

効果は強いのですが、いろいろな副作用がありますので最近ほとんど使われません。

注射

ヒスタミン添加免疫グロブリン(筋肉内注射)

副作用が少なく、約十日間位効果が持続します。血液製剤ですので、注意して使います。

当院では特に希望者だけに使っています。

ステロイドホルモン剤(筋肉内注射)

効果は強く、持続も長いので一発で良くなる薬といわれているようですが副作用が心配なので当院では使っていません。

点鼻薬、点眼薬

抗アレルギー剤のもの、ステロイドが入っているもの、スプレー式、滴水状、軟膏状などいろいろなものがあります。

当院の一般的、花粉症治療

抗アレルギー薬

一日一回または二回服用、ほとんど副作用がありません。これだけでコントロールできる人がかなりいます。

点眼剤・点鼻薬で六〇%位

の人がコントロールされます。

抗ヒスタミン薬

鼻みず、鼻づまりなどの症状が強い時に使いますが、ねむくなる、のどが渇くなどの副作用がかなりあります。

E・メールを送って下さい。
norikazu@okutu.jp

3月・4月の休診日

(日曜・祭日

水曜・土曜・第一火曜午後)



みなさんの質問や投稿をお待ちしております。
受け付けからのお願い
月初めには必ず保険証を受け付けにお出し下さい。
診察券は毎回お持ち下さい。